

2019～2022 年度 国際ロータリーのテーマ

# ロータリーは世界をつなぐ



マーク・ダニエル・マローニー

大島 浩輔

2019～2020 年度  
国際ロータリー会長

2019～2020 年度  
第 2670 地区ガバナー

小松島ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日 [12:30～13:30]

例会場 菊寿殿 おがわ 小松島市小松島町字外開 7-1

TEL:0885-32-0205

事務局 小松島市金磯町 10-19 TEL:0885-33-1211

## 2019 年 12 月 27 日 第 3334 回 例会記録

会員総数	25 名
出席会員	18 名
本日出席率	72.0 %
前回出席率	76.0 %

### 会長報告 (木村 幹男)

- ・令和最初の年末です。令和元年は災害の多い年でした。天皇・皇后両陛下も被災地を見舞われました。
- ・当クラブでは、前半で 3 人の退会がありました。来年は、会員増強に力を注ぎたいと思います。
- ・1/10 の例会は夜間例会です。新年互礼会とします。
- ・寿満会員の紹介で、マイクロインテックスの齋藤孝弘さまが来られています。後程今、今年最後の卓話をさせていただきます。
- ・バンさんが来られています。

### 幹事報告 (芝 敏廣)

- ・ RI 世界大会がハワイで開催されますが、その申込み案内が来ています。

### 委員会報告

特になし

### 卓話

マイクロインテックス(株) 齋藤孝弘代表取締役社長“キャッシュレス時代における《QR コードは大丈夫なのか?》”「視覚情報の進化と落とし穴」  
 ◎モノクロの QR コードではどこのサイトへ行くか解らないですが、カラーであればそれが解りやすい。モノクロではステッカーを張るだけで詐欺犯罪を犯し易い。カラーQR コードの特許を有してはいるが、徳島発ではなかなか中央に浸透しない。最近になって漸く理解が得られる状況になってきた。◎中国では QR コードキャッシュレスが 20%から 70%にシェアが伸びた。日本でも今後の伸びが期待できます。

◎NTT に勤務していた頃、公衆電話がカード化(テレカ)され、企業側も使用者側もともに便利になった。今ではそれが携帯→スマートフォンになっています。中国では犯罪が多発しているとのこと。今後もイタチごっこでしょうが、一目瞭然で解り易くなれば必然的にカラー化される。犯罪防止・セキュリティだけでなく、企業のコマースにもなるです。

◎質疑応答(葛原)齋藤さんの仕事は QR コードを作成することですか? : ➡QR コード自体はバーコードと同じで、0 と 1 でできています。客が持っているモノクロの QR コードに絵・カラーを付けることが仕事です。(寿満)情報量は? : ➡情報量は殆ど変わらないです。キャッシュレスは、国としてはお札や硬貨をより、メンテ等も楽になります。



## ◎卓話時の配布資料 & ホワイトボード



### 資料 4、5 page の内容

QR 決済でカネをだまし取る「ステッカー型」詐欺とは/週刊エコノミスト・トップストーリー/エコノミスト編集部/毎日新聞「経済プレミア」  
 スマートフォン(スマホ)のアプリを立ち上げるだけで、店頭で決済ができるQRコード決済(スマホ決済)。手軽な決済手段として注目を集める一方、ベンチさゆえに脆弱性も併せ持っている。週刊エコノミスト 10 月 1 日号の巻頭特集「キャッシュレス大混乱」より、ダイジェストでお届けする。【エコノミスト編集部・村田晋一郎・加藤結花】

### スマホ決済の売り上げが計上されず・・・

スマホ決済には、ユーザーが自分のスマホに QR コードを表示し、店舗側が端末で読み取る「利用者提示型」と、店頭で表示された QR コードをユーザーがスマホで読み取る「店頭提示型」の 2 通りがある。利用者提示型の場合は、店側は QR コードを読み取るための端末を用意する必要があるが、店舗提示型の場合は、QR コードを印刷した紙をレジに置くだけでよいので、コストを掛けずにスマホ決済が導入できる。

編集部が取材を進めたところ、QR コードを使ったスマホ決済に、安全面で重大な欠点があることが判明した。

都内のある繁華街の飲食店でのも出来事だ。この店が店舗提示型のスマホ決済を導入した。飲食店では支払いを現金でやりとりすると、現金を扱うたびに店員は手を洗う必要がある。ここでスマホ決済、しかも客に QR コードを読み取ってもらうだけの店舗提示型であれば、店員の業務効率も格段に向上する。この店もスマホ決済の導入でその恩恵を見込んでいた。

ところがある時、スマホ決済経由の売り上げが数日間全く計上されない事態が発生した。不審に思った店が確認したところ、レジに置いてある QR コードの上から別の QR コードが貼ってあった。客は店に代金を支払ったつもりだったが、実際には QR コードを偽造した何者かの口座に送金されてしまっていたのだ。犯人はスマホ決済経由で店の売り上げを奪っていたことになる。飲食店では、店員は接客で慌ただしく店内で動き回るものの、レジには会計時しか立たないことが多い。その隙を突かれた格好だ。

### QR コードは簡単に作れる

QR コードはもともとデンソーが開発したが、技術を公開したことで広く普及。一般的に利用するためのスマホアプリもあり、QR コードは簡単に作成できる。前述の飲食店の不正利用の偽の QR コードもコード自体は容易に作成されたものだろう。

犯罪者側が店舗提示型で QR コードを偽造する手法は「ステッカー型」ともいわれている。偽の QR コードを印刷したステッカーを正しい QR コードの上に貼っていく。中国では、レンタル自転車の QR コードに偽の QR コード貼ってあったり、駐車違反の切符に付いている罰金支払い用の QR コードに偽の QR コードを貼ったりする手口も確認されている。こうした犯罪を防ぐためには、店舗側の管理体制を強化しておく必要がある。